

ごみの分別・回収の見直し検討に至った これまでの経緯(概略)(1/2)



平成7年の完成当時の清掃センター



築25年が経過した現在の清掃センター
風害、塩害に加え、内部では経年劣化により焼却炉のひび割れなども頻発

昭和54年12月	前の焼却場完成(処理能力2.5t/1日) ごみ回収開始
平成6年6月	現在の清掃センター建築着工 国立公園第2種特別地域に建設
平成7年12月	現在の清掃センター完成 (処理能力2.5t/1日)
平成19年4月	ごみ分別が現在の方法に。
平成30年度	現在の清掃センターは築25年以上が経過し、老朽化により故障が頻発、運営費が高額に。当年度にかかった経費は3,339万円、うち修理費用は1,976万円。
平成31年度	当年度にかかった経費は4,053万円、うち修繕費は2,739万円に。 12月から紙類の分別回収追加。

これらを受けて検討が必要な事項

事項	村の考え
清掃センターの建替え	<p>◎ランニングコストが低い施設にしたい。 (処理能力0.15t/1時間(1.2t/1日)未満なら都や国の許可不要で、届出のみで済むため早期に建設可能。建設費用もランニングコストも低く済み、村の将来的な財政負担も少ない)</p> <p>◎できるだけ小さな施設にするため家庭ごみの分別徹底を図ることで可燃ごみの量を減らしたい。</p>

村民への金銭的負担の増となる安易な家庭ごみ有料化を行いたくない

※粗大ごみについては、破碎や分別などを行う必要があり、処理費用が高額となることが見込まれるため、有料化の検討を行っていく。また、リサイクル家電の指定場所への運搬についても費用の徴収を検討する。

(参考) 清掃センターの規模による違い

	現在の規模で建替(最大2.5t/1日)	小規模焼却炉(最大1.2t/1日)
許認可	許可	届出(審査なし)
建設費用	5億円以上	1億円程度
修理	難しい	容易

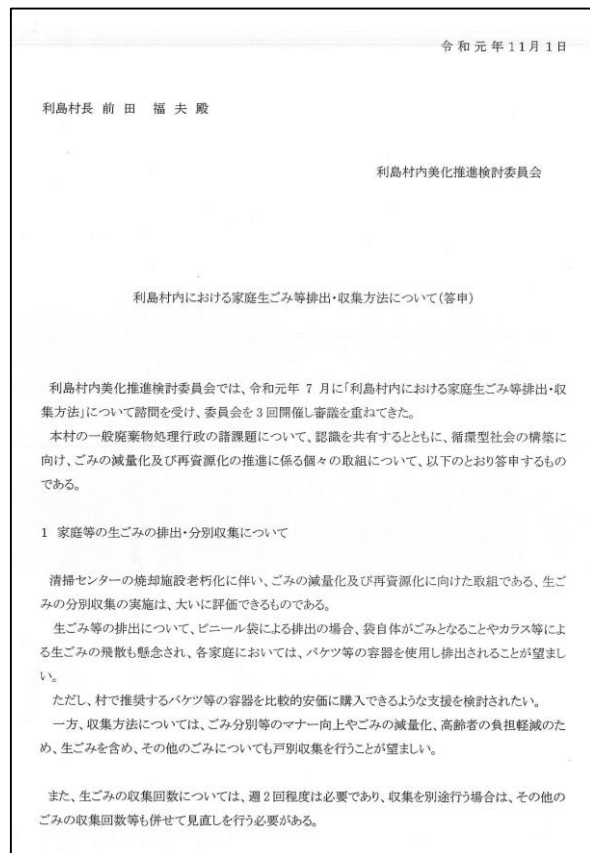
ごみの分別・回収の見直し検討に至った これまでの経緯(概略)(2/2)



令和元年 7月24日	<p>利島村内における家庭生ごみ等排出・収集方法のあり方について、村長が利島村内美化推進検討委員会に諮問を行い、これを受けて第1回村内美化推進検討委員会を開催</p> <p>村長の諮問文 (検討をお願いする文書)</p>
9月4日	村内美化推進検討委員会開催
11月1日	村内美化推進検討委員会開催
11月1日	<p>村内美化推進検討委員会の答申を受領 →これを受けて新たなごみの分別・回収の見直しを検討。</p> <p><<検討結果>></p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸別回収 ・燃えるごみ週3回を「生ごみ週2回」「可燃ごみ週1回」に分類 ・資源ごみの分別を容器包装リサイクル協会の標準的な方法に
令和2年 4月	<p>生ごみ処理バケツの配布開始。 4月18日の新型コロナウイルス対策のため、 配付一時中止。 4月20日説明会延期。</p>
5月	<p>連休明けの開始を新型コロナウイルス対策のため、延期。</p>
7月10日 17日	<p>住民説明会実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10日 13:30～ 26名、18:00～ 39名 ・17日 13:30～ 23名、18:00～ 23名
9月	<p>広報としまで1日～18日 アンケート実施。 →住民説明会でのご意見とアンケート結果を踏まえて再度見直しを実施。</p>
10月	<p>27日、29日 住民対話会開催。 再度見直した村案のご提示。</p>

利島村内美化推進検討委員会

- ・条例により設置
(平成26年条例第6号)
- ・村長に意見を述べる機関
- ・委員6人(村民)
- ・任期1年



令和元年11月1日に受領した利島村内美化推進検討委員会の答申



分別されない状態でステーションに排出されたごみ

1 戸別回収は実施せず ごみステーション方式を継続

生ごみの出し方



朝8時30分までに、生ごみ用のバケツをごみステーションに持っていきます。



ごみステーションの中に、生ごみ用のバケツを置きます。



仕事帰りなどに朝に出したバケツをごみステーションから回収します。

生ごみ

役場内には、電気もガスも不使用で微生物のチカラで生ごみを3年で10%の容量まで分解できる生ごみ処理槽だけを設置し、周辺を芝で飾り、パネル等で役場を訪れる方に、資源循環や持続可能な社会作りに意欲的な利島村をアピールしていきます。

資源物



2 可燃ごみの回収回数は、 週1回から週2回へ

2 可燃ごみの回収回数は、 週1回から週2回へ

処理槽の紹介



生ごみ処理槽の周辺を芝で飾り、パネルで紹介(予想図)

生ごみを発酵分解させるためコバエは発生しますが、投入口に網をかぶせており、開けるときに殺虫剤をスプレーするため外にでる虫は抑制されています。また、においも外にはもれません。

資源物の拠点収集

ごみステーション方式を継続するため、役場敷地内へ資源ごみのステーションは設置しません。ご自宅に保管しきれない場合、資源物は、はしけの広場下の倉庫までお持ち込みください。

の分別方法

缶やガラスなどの資源物の分別方法は、7月に実施した説明会と変更ありません。

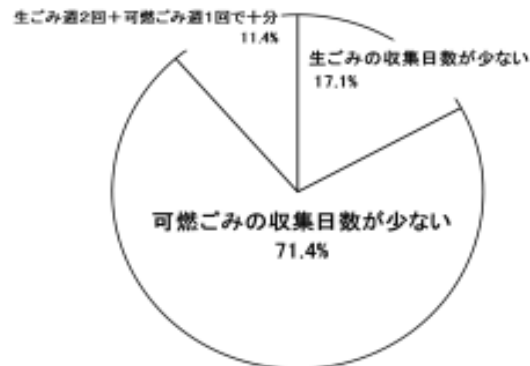
日本容器包装リサイクル協会の分別方法に準じているため、次のホームページで動画で確認することができます。

URL <https://www.jpcri.or.jp/recycle/tabid/933/index.php>

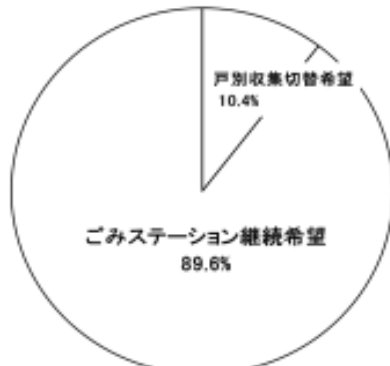


いただいたアンケートの結果は次のとおりでした。

(1) 生ごみと可燃ごみの収集回数について



(2) 戸別収集(家の前での収集)について



貴重なご意見をたくさんお寄せ下さってありがとうございます。

(3) もし、戸別収集に切り替える場合に、気を付けてほしいことはありますか？

- ・カラスやねずみ、強風の対策を村はどう考えているのか。
- ・戸別方式には反対、現在のステーション方式の継続。
- ・ステーション方式を継続し、班を作り、住民で管理していく
……などのご意見をいただきました。

(4) もし、戸別収集に切り替える場合に、プライバシーに配慮した収集方法として、どのような方法があると思いますか？ご自由に記入してください。

- ・戸別方式に反対。
- ・中身が見えない袋などに入れてだせるようにしてほしい。
- ・中身の見えない袋にするのは問題がある。
……などのご意見をいただきました。

※生ごみの収集日+可燃ごみの収集日が少ないとの回答が6件
※無回答10件

※無回答3件